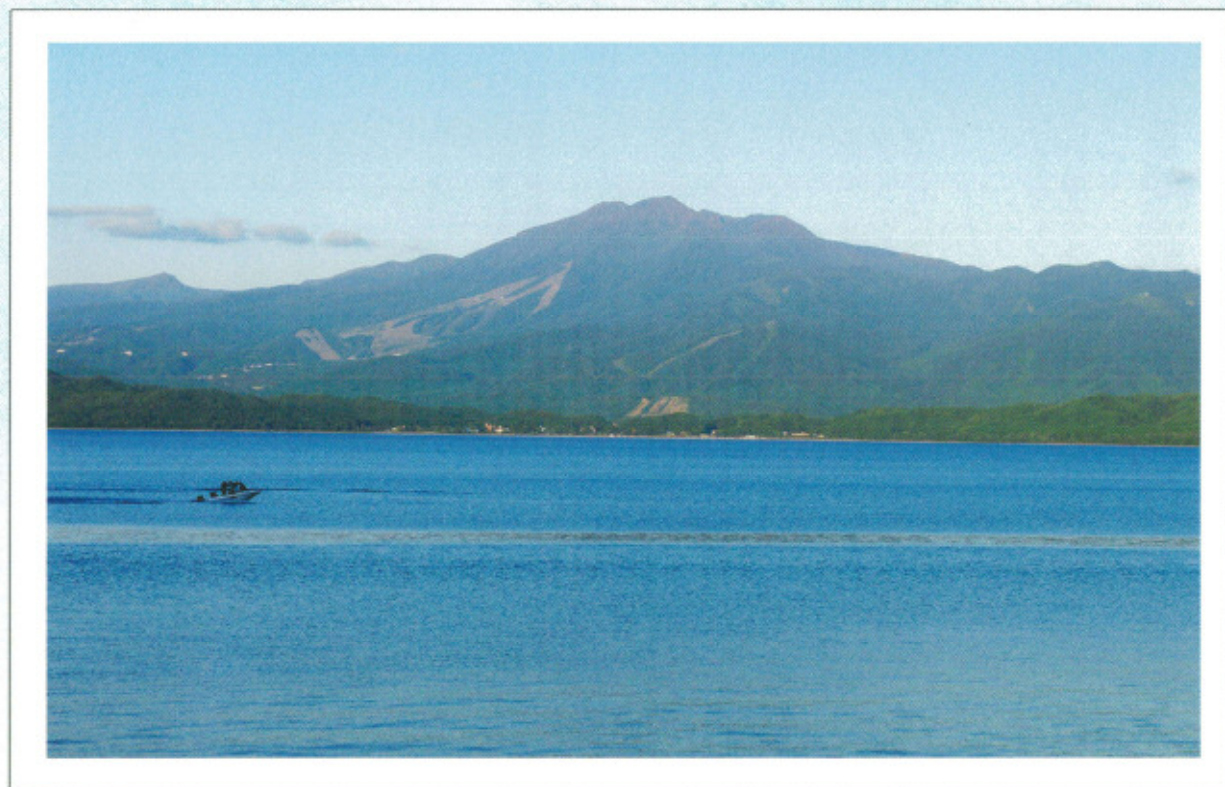


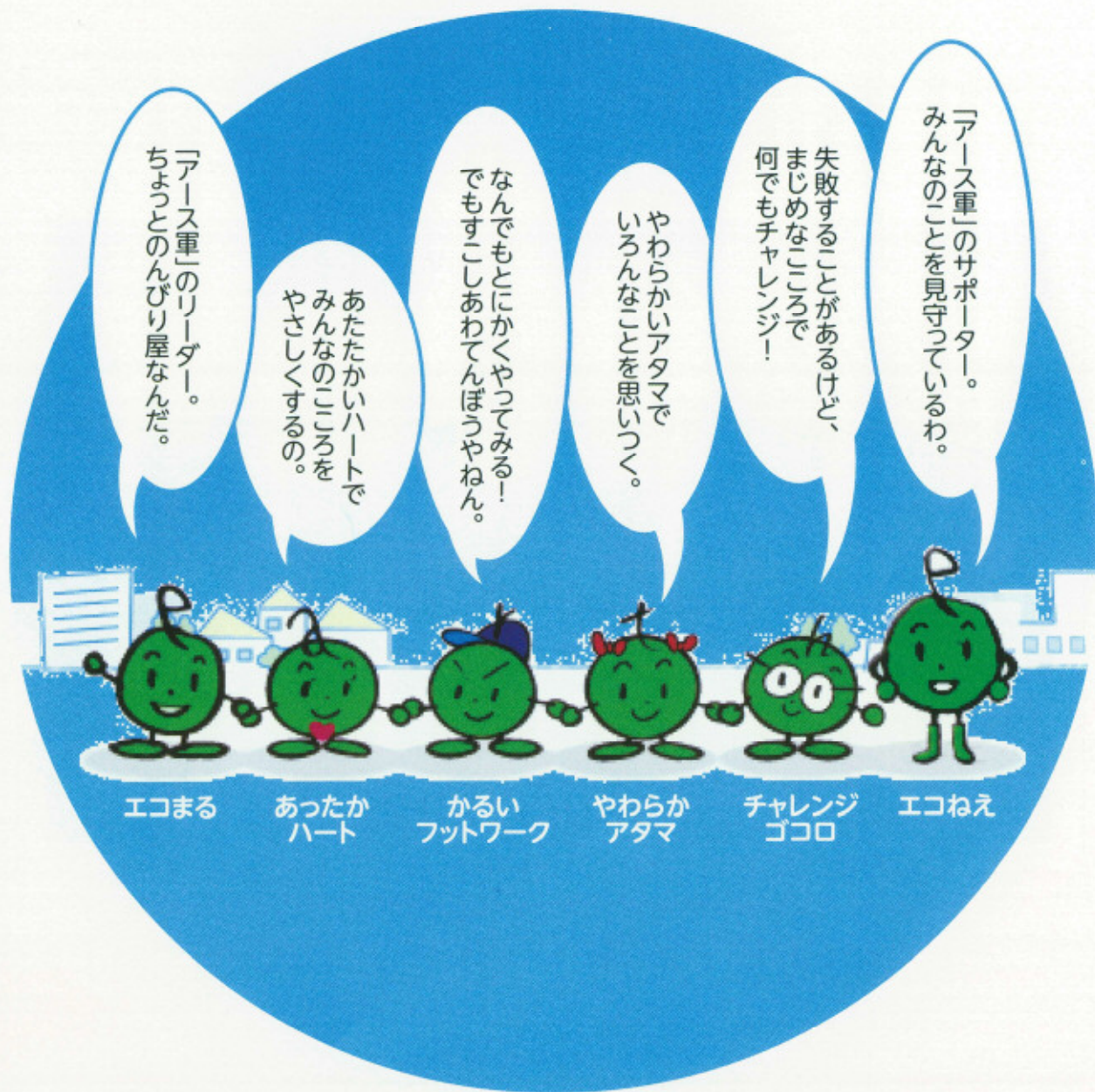
こどもエコクラブ

活動報告集 2011



夕日の田沢湖・秋田駒ヶ岳

秋田県



表紙の写真について

最大深度は423.4mで日本で一番深い湖です。この深さのため、真冬でも湖面が凍りつくことはありません。平成22年12月に、かつて田沢湖に住んでいたクニマスが山梨県の西湖で発見され、全国的にも大きなニュースになりました。

は じ め に

平成7年度からスタートした「こどもエコクラブ」は、平成23年度で17年目をむかえました。平成23年度は58のクラブが登録し、3,887人（平成24年2月29日現在）の子どもたちが環境に関わるいろいろな活動を行いました。

本冊子は、各こどもエコクラブから今年度行った活動の一端について報告をいただき、それらをまとめたものです。

この冊子には、みなさんの今後の活動の参考となるところがたくさんあります。これからの活動がさらに広く深くなるための手助けになれば幸いです。また、各学校におかれましても、様々な学習の時間などに活用されることを期待しています。



こどもエコクラブ
イメージキャラクター
エコまる

目次

こどもエコクラブってなに？	4
みんなが応援しています！	5
こどもエコクラブ活動報告	
保戸野児童館まめまめ隊（秋田市）	6
旭北児童館こどもエコクラブ（秋田市）	6
あきたみどりフレンド（秋田市）	7
ハッピー☆ハッピー（秋田市）	7
ひろおもてエコクラブ（秋田市）	8
若駒学童クラブ（秋田市）	8
さくら冒険王こどもエコクラブ（秋田市）	9
マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブ（秋田市）	9
イオン土崎港店チアーズクラブ カモメ（秋田市）	10
ボーイスカウト秋田第26団・花輪（鹿角市）	10
せいいいエコクラブ（秋田市聖霊幼稚園）	11
第二ルンビニ園ちびっこクラブ（秋田市第二ルンビニ園）	11
藤里小エコクラブ（藤里町立藤里小学校）	12
五里合4松エコクラブ（男鹿市立五里合小学校）	12
旭川小学校エコクラブ3年（秋田市立旭川小学校）	13
山谷小エコクラブ（秋田市立山谷小学校）	13
浜田小エコクラブ（秋田市立浜田小学校）	14
戸島小学校エコクラブ（秋田市立戸島小学校）	14
大曲小学校自然発見クラブ（大仙市立大曲小学校）	15
雄物川北小学校エコクラブ（横手市立雄物川北小学校）	15
秋田東中学校科学部（秋田市立秋田東中学校）	16
岩見三内中学校エコクラブ（秋田市立岩見三内中学校）	16
附属中学校情報・科学部（秋田大学教育文化学部附属中学校）	17
六郷中学校科学部（美郷町立六郷中学校）	17

こどもエコクラブ活動重点支援校活動報告

雪沢小学校タケノコクラブ（大館市立雪沢小学校）	18
花岡小ひまわりクラブ（大館市立花岡小学校）	18
大館南こどもエコクラブ（大館市立南小学校）	19
鷹巣南小学校エコクラブ（北秋田市立鷹巣南小学校）	19
いたてエコクラブ（北秋田市立合川西小学校）	20
第四小学校4年部エコクラブ（能代市立第四小学校）	20
朴瀬小学校こどもエコクラブ（能代市立朴瀬小学校）	21
桜小学校こどもエコクラブ（秋田市立桜小学校）	21
飯田川小学校エコクラブ（潟上市立飯田川小学校）	22
五城目小学校エコクラブ（五城目町立五城目小学校）	22
井川小学校自然観察クラブ（井川町立井川小学校）	23
西目小学校シーガルエコクラブ（由利本荘市立西目小学校）	23
直根小学校エコクラブ（由利本荘市立直根小学校）	24
東由利小エコクラブ（由利本荘市立東由利小学校）	24
平沢小サイエンスクラブ（にかほ市立平沢学校）	25
藤木小学校エコクラブ（大仙市立藤木小学校）	25
角間川小学校エコクラブ（大仙市立角間川小学校）	26
横堀小学校エコクラブ（湯沢市立横堀小学校）	26
仙道小学校サイエンスクラブ（羽後町立仙道小学校）	27
鳳中学校科学部（横手市立鳳中学校）	27

◎かべしんぶん 28

◎「環境の達人」を派遣しています 30

◎楽しみながらエコを学ぼう 33

◎平成23年度登録クラブ一覧 34

付録（登録用紙） 36

こどもエコクラブってなに？

こどもエコクラブは、幼児から高校生まで、だれでも参加できる環境活動のクラブです。
平成23年度は、全国で3,293クラブ、148,047人（平成24年2月29日現在）のこども達が参加し、活動しました。

- 主な活動は「**エコロジカルあくしょん**」「**エコロジカルとれーにんぐ**」の二つです。



各クラブが自主的に行う活動で、ゴミ探検、水生生物調査、自然観察、リサイクル活動など、環境に関することなら何でも「あくしょん」になります。



ニュースレターで紹介されるもので、毎日の生活の中で地球や環境のことを楽しく考えるプログラムです。

- クラブの会期は特に定めません。いつでも登録して活動が始められます。
- 会員になると、全国事務局から、活動に役立つヒントがたっぷりの「活動記録シート（エコログ）」が送られます。また、みんなの活動や環境についてのいろいろな情報がのっている「ニュースレター」が送られます。
- 自分たちの活動報告をウェブサイトに掲載し（非掲載の選択も可）、多くの仲間に伝えることができます。お互いのクラブ同士の交流を深め、活動の幅を広げることができます。
- 活動を報告すると、スタンプがもらえます。スタンプを5個集めると、「アースレンジャー認定証」が授与されます。また、継続すると3年で銀バッジ、6年で金バッジがもらえます。



金・銀バッジ



アースレンジャー認定書

- 会員になるには、すでに登録されているクラブの会員になってもよいですし、仲間を集めて新しいクラブをつくってもよいです。入会金・会費は無料です。

こどもエコクラブのつくり方

仲間を集めます

2人以上の仲間を集めます。

サポーターを決めます

クラブ活動を支えてくれる大人のサポーターを決めます。

登録します

こどもエコクラブ全国事務局に届ければ、クラブとして登録されます。

問い合わせ先

- ◆ 財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局 …… ☎03-5643-6251
こどもエコクラブウェブサイト …… <http://www.j-ecoclub.jp/>
- ◆ 秋田県生活環境部環境管理課 …… ☎018-860-1571

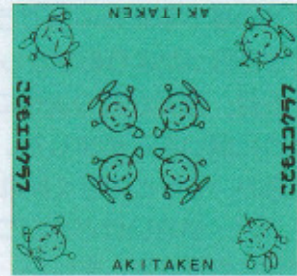
みんなが応援しています!

こどもエコクラブの活動を、県やこどもエコクラブ全国事務局などが応援しています。

秋田県から

● バンダナの提供

会員の活動意欲と会員同士の連帯感を高めるために、新規会員にこどもエコクラブのバンダナを提供します。



● 活動報告集の作成・配付

こどもエコクラブ活動の情報交換のため、その年度の活動をとりまとめた活動報告集（本冊子）を作成・配付します。

● 環境調査活動を行う際の機材の提供や講師の派遣

小・中学校で、酸性雨調査、水生生物による水質判定、パックテストによる河川湖沼の水質調査等、環境調査活動を行う際の機材を提供します。

また、調査器具や薬品の扱い方や判定方法などの専門的な話ができる講師も派遣します。

● 環境学習リーダー研修会の開催

大気や水質の調査方法や自然観察についての研修会を実施します。

● 環境学習会等への講師の派遣（「環境の達人」）

学校や各種団体が主催する環境学習会や研修会等へ環境カウンセラーなどの講師を派遣します。（30ページにも記事があります。）

● こども環境劇の上演

環境を題材にした劇（こども環境劇）を県北・中央・県南で上演します。どなたでも楽しめるミュージカルです。

こどもエコクラブ全国事務局から

● こどもエコクラブ全国フェスティバルへの参加

1年間の活動内容をまとめた壁新聞の募集に応募した秋田県のクラブの中から、1つのクラブが選ばれ、こどもエコクラブ全国フェスティバルに参加します。

今年度は、秋田市のマックスパリュ東北秋田イオンチアーズクラブが、3月25日早稲田大学で開催される「こどもエコクラブ全国フェスティバル2012」に参加し、全国から集まった人達と交流しました。

● こどもエコクラブパートナーシッププログラム

民間企業や財団による環境活動に関する資料や環境活動プログラムの提供などを行っています。詳しくは、こどもエコクラブ全国事務局のホームページをご覧ください。

こどもエコクラブウェブサイト <http://www.j-ecoclub.jp/>

保野児童館まめまめ隊

秋田市

今年4月に児童館が新しくオープンしました。花だんができたので、児童館を利用している1年生から6年生まで、55人がエコクラブに登録し、エダマメをはじめいろいろな野菜を栽培することになりました。

5月、はじめてクワを使って畑をたがやし、エダマメ、トマトの種や苗をみんなでうえました。クワを使ったたがやすことが思ったよりむずかしかったです。

6月、野菜が育つように草とりをしたり、水まきをしておおきくなるように願いをこめました。芽がでたときは、うれしくて何度も畑をのぞき込み、もっと大きくなればよいなと心の中で思いました。

7月、小さいけど実が付きはじめました。食べられるのかワクワクしながらお世話をしました。肥料を追加してラブ注入了しました。

8月、心をこめて作った野菜が収穫できるようになり、初めてキュウリをとりました。とげがあるなんて知らなかったので手にさざりましたが、大きなキュウリでとてもうれしかったです。トマトも赤や黄色に色がつき、マルマルモリモリと枝についています。エダマメもそろそろ食べごろです。

9月、エダマメを畑からぬき、枝から豆をとり、熱いお湯に入れて枝豆パーティがスタートしました。塩味の枝豆がおいしかったです。今年のみめまめ隊は以上で終了しました。



旭北児童館こどもエコクラブ

秋田市

こどもエコクラブに入会し、すぐに送っていただいた緑のバンダナ。それを見て、最初に思いついた計画が「グリーンカーテンの前で、バンダナを巻いたメンバーの記念写真を撮ろう」でした。さらに、他にも野菜を育ててみようということになり、裏の小さな畑に落花生やトマト、キュウリを植えることに挑戦。かくして旭北小学校の先生方の協力で、ゴーヤのためのネットを張り、牛乳パックで落花生の芽出しをしたり、素人の野菜作りが始まりました。



夏休みに子どもたちと収穫。収穫した野菜を通し、送迎の保護者の皆さんと、野菜を巡る会話が弾んだことが、何よりも私たちの収穫でした。

落花生も10月に収穫。実のつき方のおもしろさより、出てきたミミズやダンゴムシに大騒ぎ。12月には、新聞紙や折り紙で「エコしめ飾り」を作りました。「エコしめ飾り」はどんと祭には、ビニールやプラスチックを使っていないので、このまま出せるからと話しました。

この1年、エコを意識しながらの、児童館歳時記でした。



あきたみどりフレンド

秋田市

平成23年度のこどもエコクラブ活動の大きなイベントは、平成23年7月31日に秋田県生涯学習センター地下1階展示場で行った「第3回こどもエコ学習 ぼくとわたしの～夏の工作・木の宝物づくり～」でした。あきたエコマイスターと共催し、多くの子どもたちと父兄、一般見学者でにぎやかに開催されました。午前10時から昼食をはさんで、午後3時までの約1日のゆったりとした時間をとり、子どもたちの発想が自由に出てくる環境を整えました。



工作① 野山の木の実（ドングリ、松ぼっくりなど）、枯れ枝、枯れた木の根株など、事前に教材を採取し、自然の大切さや環境の仕組み、自然との共生等を学習する。

工作② 私達の母なる川や海に流れ着いた流木の活用で素晴らしい芸術品ができる事の発見。木は活用次第で、いつでも人のためになっている大切な資源であること。

工作③ 里山で廃材として置き去りにされた建築廃材や伐採の枝、板の活用、飾り物製作。

この3つの工作を自分の考えで選択できるようにして、子供の考える力と完成するまで自分でやり遂げる喜びを大切にしました。それぞれの講師が「子どもたちが楽しく製作し、参加した子ども同士の会話が思い出に変わるように努めた事がよかった。」と言っていました。世界に一つしかない宝物づくり、地球温暖化の紙芝居の学習など、子どもたちの活発な意見交換や出来た作品の満足感で大きな目が輝いていました。



ハッピー★ハッピー

秋田市

2011年は震災があり、こどもエコクラブの環境保全活動は大きな成長をしました。環境保全やエコは立派で楽しいだけの活動ではなく、生き延びるための活動になることを震災から感じ意識するようになりました。節電・節水・節約は、目先のお金や資源を一時確保するものではなく、地球と生物が長生きするための大切な活動だと気がつきました。

生まれた時からエアコンが効いていて、明日の食糧にも困った経験のない裕福な時代に生まれた自分たちは、“不自由・不便・不足”に弱かったのです。とくに電気や水に不自由を感じた時、小学校3年生で勉強した“昔の暮らし”を思い出し、先人の生活の工夫や知恵を学びたいと祖父母にインタビューをしました。

今年度は、自分たちの環境保全活動を意識した生活を地元新聞に取り上げてもらったおかげで、新聞を読む多くの大人や子供に自分の夏休みのエコな過ごし方のメッセージを発信することができました。今年は楽しい活動はあまりできませんでしたが、自分なりのメッセージを発信できた忘れられない2011年になりました。



ひろおもてエコクラブ

秋田市

私達は、秋田市広面地区で活動しているクラブです。昨年は8名と少なかったのですが、今年は小学1年生が5人も入り、総勢15名とにぎやかになりました。低学年が多いためか、自然観察などに親子で参加ということも多々あります。特に1年生は何をやっても楽しいのか、「ゴミ拾いが楽しみ」という声もあり、これから徐々に、「楽しい」から「考える」「行動する」など年齢に応じた活動ができるようにと期待しています。



今年の新たな取り組みとして、太平山スキー場近くの「妙見山」登山を企画しました。標高258mと低い山ですが、事前の下見ではなかなかの見晴らしでした。しかし当日はあいにくの雨で、登山は叶わなかったのですが、仁別の林を傘差し散歩をし、それはそれで子供達は非日常の体験を満喫していました。またこの付近は、初夏に水生生物の観察を行ったところでもあり、季節による違いも観察することができました。



平成19年度から取り組んでいる壁新聞作りも定着し、高学年のリーダーシップにより、楽しく盛り上がり、時に少々もめながらも頑張っている様子です。

地域のクラブなので、幅広い年齢に合ったプログラムにするのがやや大変と感じておりますが、これからも皆で相談しながら続けていきたいと思っております。

若駒学童クラブ

秋田市

若駒学童クラブでは、現在1年生17名、2年生6名、3年生10名、4年生3名、5年生6名の計42名で活動しています。今年度は外の活動としては、11月に近くの公園の掃除を行いました。

工作は4つしました。1つめはクリスマスグッズです。ペットボトルと段ボールを使い、クリスマスリースを作りました。段ボールはリースの形にカットし、ペットボトルは小さく長方形にカットしたものに、ポスカで色や模様をつけた後、オーブントースターで焼いて、くるくると丸まったものをリース台に飾り付けました。モールで作った赤い実やマカロニなども添えて、華やかに飾り付けました。2つめは牛乳パックで作ったはがきを使い、両親に宛てて年賀状を出しました。でこぼことした紙質でとても書きにくく、子どもたちは悪戦苦闘しながらも、上手に絵を描き、マジックや折り紙を使いカラフルな年賀状ができあがりました。3つめは、お正月飾りとして段ボールと画用紙を使い、絵馬をつくりました。子どもたちは、思い思いのめあてや願い事を書きました。4つめは、牛乳パックを使い節分で使うめいれを作りました。



今年度最後のエコ活動は、外部から講師を招き、環境についてのクイズをしたり、牛乳パックを使って竹とんぼを作りました。みんなで競争しながら飛ばし、楽しい時間を過ごしました。これからもエコ活動を通して、環境を守る事の大切さや物を大事にする気持ちなどを学んでいって欲しいと思っております。



さくら冒険王こどもエコクラブ

秋田市

こんにちは！ わたしたちは秋田市の桜小学校区にある、さくら冒険王学童保育クラブで結成しているこどもエコクラブです。

わたしたちの主な活動は、毎月の廃品回収と地域清掃です。

毎月、自分たちの家から資源化物を持ち寄って、分別・整理をします。新聞紙や雑誌、ダンボール、アルミ缶やスチール缶、いろいろなものが集まります。

意外と多いのが、学校から配られるプリント類です。おたよりやお知らせも、日にちが過ぎてしまえばいらなくなります。お名前が入っているものはシュレッダー行きになってしまいますが、その他のものは封筒にまとめて、雑紙として回収に出しています。

捨ててしまえばごみですが、きちんと分けて出すことによって、資源が新しく生まれ変わります。秋田市のごみ袋が高くなるそうなので、もっと分別を頑張って家庭から出るごみを減らしたいと思っています。

また、冬場は大変ですが、いつも遊びに行く公園のごみや、その行き帰りの歩道のごみを拾っています。この活動を通して、休みの日に自分から歩道のごみ拾いをしているお友達もいます。

これからも、エコクラブの活動を通して自分たちや地域のためになることをしていきたいと思います。



マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブ

秋田市

今年も一番人気は「緑の少年団交流会」。

初めての体験として、カヌーに乗って「ゴミ拾い」。カヌーが水面に浮くのか、上手く漕げるのかなど、不安だらけでした。しかも、カヌーは思い通りに動いてくれなくて、せっかくごみをとろうとしても、なかなか近づくことができなかつたり、手が届かなかつたり困ったことばかりでした。陸と水の上の違いがはっきり。

商店街すぐろくはお店をすぐろくに見立ててサイコロを振って、次を目指します。道に迷つたり、お店が見つからなかつたり、地図を手にとって、自分の目で確かめながら、歩いて探すことが大変でした。お店の人とお話や、じゃんけんをしたり、電気の数を数えたり、ちょっとケーキを食べて休んだり、いつもと違う体験ができておもしろかったです。街の人がやさしくしてくれて、うれしかったです。



イオン土崎港店チアーズクラブ カモメ

秋田市

イオン土崎港店チアーズクラブは、5年生4名、2年生6名の計10名のクラブです。今年はゴミをテーマとした活動を8回行いました。

秋田市のゴミ処理場を見学し、現状を見る・知る・学ぶを体験することで、子どもたちは興味津々に目を輝かせていました。今、世界で環境破壊の問われている原因の1つにゴミ問題があることが分かりました。子ども達は、身近なゴミがどのように処理されているのか。ゴミの量は増えているのか。ゴミを減らすために何ができるのか。ゴミを燃やすことでダイオキシンが出て、環境に影響が出ること、ゴミを分別しなければ、機械が壊れたり人間の手作業が増えるなど悪循環になることも分かりました。

子ども達からもっと詳しく知りたいとの要望に、秋田市環境部に出前講座をお願いし、勉強会を実施しました。自分たちができるゴミの分別クイズをしたり、分かりやすい内容で勉強は楽しく行われました。家に帰り、「お母さんにクイズを出してみよう！」など得意げになった顔はとても印象的でした。

また、レジ袋削減のために、昔懐かしい風呂敷のバックやリュックサック作りを教えてくださいました。肩にかけたり、背中にしょったりして楽しみ、笑いが起こるなどもりあがりました。

クイズや遊びの中にエコを取り入れて、幼い時から自然にエコに興味をもち、これからも活動してほしいと願っています。



ボーイスカウト秋田第26団・花輪

鹿角市

私たちは、高校生6名をリーダーとして、小中学生11名、そして指導者8名で活動しております。「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬようにしよう」のスカウト精神を基本として、県内のスカウトと共に自分自身を鍛錬しながら、地域社会に奉仕し、日夜活動を展開しております。

キャンプでは、自然の中で遊び、ガス・灯油等にたよらず、薪で調理し、林の中の立ち木を利用して刈り取った枝で小屋がけをしたり、秋の夜空を観察するなど、これが「エコ活動」と大げさに掲げず、自然に学習してまいりました。

5月と9月には、老人保健施設「東恵園」で、施設の窓ふき、花輪ばやしの演奏と踊りをくりひろげ、その後国道282号線沿い歩道4キロをカントリー作戦、空き缶（アルミ缶・スチール缶）拾いをして楽しい1日を過ごしました。

11月4日には大震災の復興を願い「共にならぼう東北！」のメッセージを掲げた看板の下、団の花壇に、チューリップ球根を3千個植えこみ、クリスマスローズ200株の葉の刈り取りをして、寒風の中冬支度を終えました。



花輪ばやしの演奏と踊りをプレゼント



カントリー作戦でひと休み

昨年ほどエコを考えさせられたことはありません。3.11の大震災、秋田は大きな被害はなかったのですが、園児は停電や断水を体験し、便利だった生活も電気が止まることでいっばいの不便を感じました。難しいことは分からなくても、「何かしなくっちゃ！」の思いにかきたてられ、自分たちのできることは何かと考えました。

「お家でも歯磨きする時は水を止めるのよ。」「電気を消すお手伝いをしたよ。」「ろうそくを知ってる。」の子どもたちとの会話から家庭の様子が目に浮かび、この一歩を幼稚園も共に続けることを想いました。蛇口から水が漏れていると進んで止める小さな手をみつけ、このことが当たり前になるよう高めていきたいと感じました。

その想いを胸に、9月のエコフェスティバルのオープニングに参加し、子どもたちと考えたメッセージと大好きな歌「あしたはがんばれる」を届けることにしました。「ちょこっと節水、ちょこっと節電、ちょこっとリサイクル」を合い言葉にみんなで声を合わせました。「電気を消すのではなく届けよう。水を止めるのではなく届けよう。」この言葉に出会い、エコすることがだれかの役に立つことにつながると感じました。

「好きだから君が好きだから、友だちさ、いつまでも。」と、子どもたちは歌の好きな言葉を教えてくれました。「人が好き」から始まるエコ。だれかを喜ばせると僕もうれしいエコ。子どもたちの笑顔がそれを教えてくれました。その笑顔と手伝う小さな手に光りを見つけ、進めるような気がします。大好きなふるさと秋田から、子どもたちの想いが届きますように！



第二ルンビニ園ちびっこクラブ

第二ルンビニ園ちびっこクラブは、年長組が中心となり楽しみながらエコ活動に取り組んできました。

今年は初めてゴーヤとヘチマの苗を植え、“緑のカーテン作り”に挑戦しました。夏にはテラス一面にゴーヤが生い茂り、そのテラスでのプール遊びは一段と楽しいものになりました。子どもたちは、緑のカーテンがあることで部屋の中に直接日が当たらず、涼しく過ごせることに気づくことができました。



その他、お菓子の空き箱やトレイ、トイレトペーパーの芯等の廃材を家庭から持ち寄り、“わくわく工作”のコーナーを設けて思い思いの工作を楽しんでいます。クリスマスの時期には、その廃材を利用してトナカイやサンタクロースを完成させました。先日行われた保育参観では、トイレト



ペーパーの芯、空き箱などを利用して作ったお菓子やメガネ、ハンバーガー、ポテトなどでお店屋さんごっこが行われ、大盛況のうちに終了することができました。

大人にとってはただのゴミであっても、子どもにとっては宝の山になることを、これからも大切にして、自分たちができる小さなエコ活動を子どもたちとともに実践していきたいと思っています。



藤里小学校のエコクラブは6年生26名、5年生29名、4年生19名の計74名のクラブです。今年度は、校内環境に関わる活動を推進するエコエコ委員会が先頭に立ち、全校みんなに呼びかけて、アルミ缶やペットボトルのキャップ集めに取り組んできました。毎年メイン活動として実施している「アルミ缶回収」では、準備した空き缶圧縮器を使用し、休み時間返上で処理に当たりました。“エコエコ委員会だより”による保護者や地域の方々への呼びかけの効果もあり、4月から12月まで回収したアルミ缶は約523kg、ペットボ

トルのキャップは約13,900個も集まりました。また、震災の影響で電力不足ということで、自分たちにもできる節電・節水と呼びかけるポスターを作成し校内に掲示しました。このように、エコエコ委員会メンバーのがんばりが、全校児童の“エコ”への取り組みを後押ししています。さらに4年生が行った「ふるさとの水の学習」では、町内の豊かで美しい川や水源地について学びました。藤琴川の簡単な水質調査や川の水生生物の採集を行い、水のきれいさや自然環境の大切さを体感させてくれました。



五里合4松エコクラブ

1 クラブ紹介

五里合4松エコクラブは、五里合小学校の4年生11名のクラブです。活動の前半は、五里合地区にある男鹿市の水源、滝の頭の見学から水について調べました。その活動の中から、水の大切さに気づいた子どもたちは、毎日の食についてエコを生かしたいとエコ・クッキングに挑戦することになりました。

2 エコ・クッキングの活動

- 「Let'sエコ・クッキング」の冊子をもとに、エコ・クッキングの意義を考え、自分たちにできることを話し合う。
- エコポイントに注意して、レシピを決める。
 - ・無洗米を使う。
 - ・具材は、家にあるものを工夫する。
 - ・ニンジンの皮は、むかずに使う。など
- 役割分担をしてむだなく調理する。



3 活動を振り返って

4年生の子どもたちにとっては、調理は少し難しかったようですが、なによりも体験することで、エコの難しさや大切さが感じられたことと思います。食することは、誰もが毎日行うことです。小さなエコの積み重ねが大きなエコにつながってほしいと考えています。

旭川小学校エコクラブ3年

秋田市立旭川小学校

旭川小学校では、地域を流れる旭川や緑豊かな仁別などの恵まれた自然を活かし、観察をしたり実際に触れたりする活動を通して、新たな気付きにつながる総合的な学習を目指しています。3年生は、「知りたい ふれたい 伝えたい 旭川のキラリ」というテーマのもと、学習を進めました。

旭川の自然に関するイメージマップ作りでは、ニホンタンポポやホタル、白鳥や仁別国民の森といった言葉が挙げられましたが、「旭川のキラリ」としてとらえている子どもは、ほとんどいませんでした。



そこで、ニホンタンポポの保護活動を推進している「ニホンタンポポを守る会」の方々を講師に迎えて、補陀寺周辺で観察会を行いました。現在私たちが目にするタンポポの多くがセイヨウタンポポであり、ニホンタンポポは自然環境の変化とともに数がどんどん減っていることを教わりました。さらに、種類の見分け方や特徴などを観察や調べ学習から学び、新聞にまとめて発表しました。この学習から、子どもたちは、ニホンタンポポを守る活動は自然の保護活動にもつながるということに気付きました。

現在、旭川小学校の裏庭にある花壇には、守る会の方からいただいたニホンタンポポの苗が植えられています。子どもたちは、長く寒い秋田の冬を越したニホンタンポポがきれいな花を咲かせる日を、とても楽しみにしています。

山谷小エコクラブ

秋田市立山谷小学校

今年度は「ホタル観察会」に先駆けて、秋田市環境部環境都市推進課の方々に講師を依頼し、全校児童参加での7月14日「ホタル教室」を実施した。山谷で生息するゲンジボタル、ヘイケボタルの他、オバボタル、ヒメボタルなどを見つけている児童にとっても、新しい学びのある講座となった。ホタルの生息する環境、秋田市の取り組み、ホタル観察の方法、ホタルの光るわけや発光実験など、楽しみながら学ぶことができた。

6年目となる「野田」地域の灌漑用水路付近での「ホタル観察会」は、地域の方も楽しみに待っていてくれる活動となっている。今年度も幼児からお年寄りまで60名以上の参加が見られた。7月の下旬で、ゲンジボタルの時期が過ぎていたため、今年は主に灌漑用水路付近のヘイケボタルを観察した。6年間ホタルの観察を続け、情報を提供して下さった地域の協力者の存在が活動を支えてくださったことに感謝している。

5年間続けてきた「太平川水質調査」は、観測地の細越橋付近の道路工事、水量の変化などで今年は実施できなかった。しかし、環境都市推進課の「きれいな水はどこから」という講座を3年生以上の児童に、総合的な学習の時間に実施していただいて、あらためて太平川の水のきれいさ（絶滅危惧種のヘビトンボなどの水生生物の存在）や川の水を地域で守っていくことの意義などについて学ぶ場となった。



これがエサのカワナナ？



ヘイケボタルだ！



太平川の水質を守ろう

浜田小エコクラブ

秋田市立浜田小学校

浜田小エコクラブは、1年生から6年生まで全校児童101名のクラブです。今年度も本校で30年以上継続している浜田浜の清掃活動を行いました。全校児童と職員で海岸に落ちているごみを拾い、その量はごみ袋20個以上にもなりました。子どもたちからは、「浜田浜がきれいになってよかった。」「ごみを捨てないでほしい。」という声が聞かれ、環境を守ることの大切さについて考えることができました。

また、5年生では総合的な学習の時間の環境学習の取り組みとして、浜田浜の漂着ごみについて調べました。浜田浜の漂着ごみを集め、ごみの種類や流れてきた場所、環境に与える影響などについて調べました。子どもたちは身近な海岸でも環境問題が発生していることに驚き、環境を守るために自分たちでできる取り組みについて考えました。

3年生では、学区内にある大森山動物園に協力していただいて、ゾウのエサになるスタックスの栽培作業を行いました。子どもたちはスタックスの種まき、除草、刈り取りと一連の作業を体験し、刈り取ったスタックスは動物園のゾウ舎に運んでゾウが食べる様子を観察しました。ゾウの糞はスタックスを栽培する際に使用する堆肥になっており、循環型の栽培方法になっていると動物園の職員の方から説明をしていただきました。



戸島小学校エコクラブ

秋田市立戸島小学校

○**全校での取組**・・・戸島小学校では、全校児童84名がエコクラブ会員として、環境学習やエコ活動に取り組んでいます。たとえば、古紙回収ボックスを廊下に設置して日常的に紙の分別を行い、再利用や省資源化を心がけています。また、クリーンアップ活動では、ふるさとの自然を守り学区内をきれいにしようと、年1回全校縦割り活動で地域清掃を実施しています。

○**委員会の取組**・・・4～6年生の思いやり委員会では、アルミ缶・スチール缶のリサイクル、インクカートリッジやボトルキャップの回収、募金活動に取り組んでおり、保護者、地域の方々にもご協力いただいてボランティアやエコ活動を行っています。



6年生による豊島館の松下草刈り

○**各学年の取組**・・・1、2年生は栽培活動を、3、4年生は岩見川や環境施設を中心に学習や活動を行っています。5年生は稲作を、さらに6年生は毎年9月に、学区内にある史跡豊島館で、松の下草刈りを行っています。講師の方から豊島館の話聞き、地域の自然やふるさとを見つめるよい機会となっています。



全校クリーンアップ大作戦

1 今年度の取組

大曲小学校の自然発見クラブは、6年生8名、5年生10名、4年生7名、計25名のクラブです。今年度は10回活動しました。活動内容は、身近な植物の観察、ダンゴムシの観察、池の中の小さな微生物の観察、身近な樹木の葉の観察などでした。また、クラブ以外の活動として、全校で夏休みと冬休みに節電チャレンジを行い、エネルギー問題について考えました。冬休み直前には、省エネ専門家の「佐藤郁子」先生をお招きして、上手な節電方法をたくさん教えてもらいました。子どもたちはさっそく、学校はもちろん、家庭そして地域で実践しました。

2 節電に取り組んだ子どもたちのコメント

- 私は、節電をして、電気は本当に大切だなと思いました。節電をしていなかった時の私は、自分の部屋などからどこかに移動するときに電気をつけっぱなしでした。でも、節電をはじめると、今までやってきたことがとても「むだ」なことだと気づきました。
- 節電はむずかしいことだと思っていたけど、家の中を見回すといろいろなところに節電できるポイントがあるんだということがわかりました。
- 節電はいろいろな人に役立つことだから、とってもよいことができてよかったなと思って、自分でもうれしかったです。私にとっては小さな節電ですが、たくさんの方がやると大きな節電になってもっと役立つと思います。
- 夜は1つの部屋になるべくみんなでいっしょにいるようにして、「楽しく」節電をしました。



雄物川北小学校エコクラブ

1 クラブの紹介

雄物川北小学校エコクラブは、6年生9名、5年生5名、4年生6名、計20名のクラブです。年間15回程度行っているクラブの活動の中に、自然の大切さを実感したり使い終わった空き缶などをリサイクルして実験に活用したりすることを取り入れて活動してきました。活動内容としては、校庭の動植物の観察、スライム作り、空き缶を利用した綿菓子作りなどでした。

2 子どもたちのコメント

- 今年はいつもの年よりも雪が多かったので、校庭にあるタンポポなどが、花をさかせないのではないかなと心配した。桜やタンポポが咲いたので、ほっとした。
- ヘチマの実を実際に開いて見た。ヘチマの実は思ったよりも軽かった。実がぎっしりとつまっていると思ったら、すき間がけっこうあった。実をふってみると、音がした。もらって行って、ヘチマたわしを作ろう。



《校庭の風景》

3 サポーターからのコメント

活動の計画を子どもたちと一緒に考えながら1年間進めてきました。昨年度よりも、校庭の動植物と触れ合う時間を増やし、身近にある自然の移り変わりに目が向くように計画をほんのちょっぴり変えながら活動してきました。



秋田東中学校科学部

秋田市立秋田東中学校

今年度は、部員28名で個人研究とグループ研究に分かれて活動を行いました。そのうちエコに関するものとして次の4つがあげられます。1つ目は「グラバラリーフ」という多肉植物の育成方法を調査したもので、水分や湿度、気温だけでなく、震災で取り上げられた土の塩分濃度との関係についても調査しました。2つ目は「砂漠化」の原因を、サハラ砂漠の砂を取り寄せて様々な観点から調査したもので、砂に畑やグラウンドの土を混ぜることで植物の育成状況に差が出ることなどが分かりました。3つ目は「打ち水」の効果を調査したもので、地面の種類や地面からの高さによって気温の下がりが違うことが分かりました。4つ目は「旭川と川に流れ込む水路の水質」の調査です。夏の炎天下の中、旭川で3カ所、川の左右の水路で5カ所の水質を調査し、地域の水がきれいなものであることを再確認するとともに、用水路の水が旭川の水質に少なからず影響を与えていることや下流に行くほど水路の水質が少しずつ落ちていくことが分かりました。

また、7月には、「環境の達人」地域派遣事業を利用し、講師の先生を理科室にお迎えして「廃油を使ったエコキャンドル作り」を行いました。この活動から、リサイクルについて改めて意識を高めることができました。



水路の水質調査の様子



エコキャンドル作りの様子

岩見三内中学校エコクラブ

秋田市立岩見三内中学校

本校の「総合的な学習」の時間の研究主題は「**かかわりあいの中で、自己の生き方を考える生徒の育成** ～環境教育を通して～」です。これは、生徒たちの「環境観」が身の周りのできるところから環境を保護・保全していくための実践的な態度を育成し、他に対して発信していくためのコミュニケーション能力（表現力）を養うことをねらいとしています。

具体的な活動の一つに、「水生生物観察会」があります。今年度も8月末に、秋田大学の石井照久先生のご指導のもとで実施しました。ここ岩見三内地区には清流として有名な「岩見川」と「三内川」があり、学校の裏で合流しています。この2つの川の水質変化を調査するために水生生物を観察しています。毎年「きれいな川」に棲む生物がたくさん見つかりますが、「昨年より多いな」「この生物は何という名前だろう？」など、会を続けている中でその年の新たな発見や感動があり、「自分たちの川」をきれいに保ちたい気持ちを強くしています。

今年度から岩見三内小中併設校としてスタートを切り、様々な行事を小学校と共同で行っていますが、この観察会にも5、6年生が参加しました。児童・生徒たちは、自分たちの住む地域が豊かな自然に恵まれていることに改めて気づき、この豊かな自然を守っていかねばならないという思いを新たにしました。そして、たくさんの人たちがこのことを共有することが、とても大切であるということを知っています。



私たち附属中学校情報・科学部は、興味のあるテーマや身近な疑問について調べようと、週3、4回の活動を行っています。今回はいくつかのグループの中でも、環境班①の「グリーンカーテン」の研究について紹介します。グリーンカーテンは、住宅の窓や壁面を植物で覆うことを言い、このことにより室内の温度を下げることができます。今年は節電が求められた夏だったため、グリーンカーテンの冷房効果に特に着目しました。



今回、ゴーヤを用いて実験を行い、遮光作用と蒸散作用の2つについて調べました。試験管と根がついたゴーヤを使って1分間の蒸散量を調べたところ、気温上昇とともに蒸散量も増加し、葉1cmあたり0.00043gの水を蒸発させる働きがあるとわかりました。今回は約120,000cmの葉を使って実験したので、水の気化熱を539cal/g、1cal=4.2Jとして計算すると1分間で約117,000J、1秒あたり約1,950Wの冷房能力に相当し、エアコンで8畳の部屋を冷房するのにほぼ同じエネルギーになります。また、カーテンのない窓の温度変化を100%とすると、グリーンカーテンのある窓は最高で46.5%の日光を遮ることができました。このような結果が、強く印象に残りました。



今回の研究で感じたことは、冷房を使わなくても快適に過ごすことができることへの驚きです。実際、実験中のグリーンカーテンのある部屋はとても涼しく、データとしてだけではなく、感覚的にも植物の冷房効果を感じることができました。暑い夏でも、ほんの一工夫で暮らしを変えることができることを見つけれられて、とても良かったと思います。この研究を普段の生活に生かしつつ、他の植物との比較や、さらに効率の良い冷房効果を得る工夫を探していきたいと思っています。

六郷中学校科学部

美郷町立六郷中学校

私たち六郷中学校科学部は、おもに「イバラトミヨ」について研究、発表をしています。イバラトミヨとは、体長は5～6cm前後。年間を通して水温が10～15度前後に安定した清らかな沼や川にしか住むことができないといわれています。県版レッドリストでは、絶滅の可能性が最も高い「絶滅危惧種ⅠA」に指定されています。私たちはこの淡水魚について、どのような環境や水質が住みやすいのかという疑問をもち、それを解決するために観察、実験をしています。六郷にはたくさんの清水があり、今年は48カ所で生息調査をしました。その中でも複数匹の生息の確認できた3カ所の清水を対象に「バックテスト」を使い水質調査も行っています。バックテストをするとその水が汚れているかなどがわかり、イバラトミヨの研究に役立っています。校舎の近くには、「ピオトープ」といわれる人工池があり、そこにイバラトミヨを放流し、観察を行っています。できる限り毎日行くようにしています。イバラトミヨの生息数の多かった紙漉座清水で、今年は行動観察を行いました。イバラトミヨ同士が突き合う行動がどれくらい起きているのか、調査しました。その結果、雄と雄が突いて逃げた回数が合計163回、雄が雌を突いて逃げた回数が97回でした。繁殖期とされる8月が過ぎた時期の調査にも関わらず、雄同士で突き合う行動が多いことから、繁殖期に限らず雄同士が縄張り争いを行っていることなどが推測されました。また、巢を守るイバラトミヨの雄の様子を動画撮影できたことも、今年の成果でした。



雪沢小学校タケノコクラブ

大館市立雪沢小学校

雪沢小学校タケノコクラブは、5年生2名6年生5名の7名で活動しています。今年度は、地域で採れるタケノコの皮を利用して和紙作りに取り組みました。そして、最終的に和紙を販売する目標をたてました。タケノコの皮は、普通捨てられてしましますが、それを和紙という形で再生することにしました。和紙作りのノウハウは、タケノコの和紙作りをしていて数年前閉校になった学校に勤めていた先生や、その時お手伝い下さった方から教えていただきました。

和紙になるまでの手順は、先ず収集と保存です。6月頃地域に呼びかけ、集めた皮を乾燥させて一夏保存しました。次は、紙すき作業です。紙すきは、寒くなる時期が適しているため秋に行います。10月頃、皮を煮て柔らかくし、すりつぶした後に紙すきを行いました。その後2週間ほど乾燥させます。最後に、出来上がった和紙をしおりやコースターに加工しました。出来上がった商品は、地域の産直センターで販売します。

この活動を通して、自然を利用することの良さやリサイクルの大切さ、商品化する際の難しさを感じることができました。今後も地域との連携を深めながら活動を続けていきたいと思えます。



皮を煮ているところ



出来上がった和紙

花岡小ひまわりクラブ

大館市立花岡小学校

1 クラブ紹介

今年度の花岡小学校こどもエコクラブは、5年生ひまわり学年24名のメンバーで結成されました。主な活動は、7月の「花岡川の水質調査（上流・中流）」や「長木川の水質調査と川遊び」、9月の「白神山地自然観察会」などです。また、花岡川の「クリーンアップ活動」や花岡川を絵に描いて展示する活動もあわせて行いました。

2 子どもたちのコメント

○花岡川には、ヘビトンボやカワゲラなどの生き物がいて、水質がすごくきれいなことがわかりました。クリーンアップをがんばってこの川をきれいなまま残したいです。

○岩の色をした魚（カジカ）をペットボトルに入れて観察したら、口が大きくて今まで見たこともないおもしろい顔をしていました。

○ガイドさんからいただいたブナの実には、ほろ苦くて、かめばかむほど甘さが出てきました。10月に紅葉して、黄金に見えるというブナの森にも来てみたいです。

3 サポーターからのコメント

環境に恵まれた地域ですが、サポーター同伴の自然体験活動や環境調査は、自然のすばらしさが実感できる貴重な機会になりました。何よりも、子どもたちが生き生きと活動し、学ぶ姿がまぶしかったです。



花岡川の生きもの
(ヘビトンボとカワゲラ)

1 クラブ紹介

大館市立南小学校の児童がメンバーのクラブです。学区は、森や川、田園に囲まれた自然豊かなところ。5年生18名で環境調査に取り組みました。

2 活動紹介「川の水質調査」

9月上旬、大館市の長木川で、川底の石の下や、川岸の水草のかけにいる水生生物をつかまえたり、採取した水をバックテスト(COD)で調べたりして水質を調査しました。その結果、バックテストでは、0~2の値を示してピンク色。つかまえた生き物は、きれいな水に住む指標生物のカゲロウ3ひき、カワゲラ7ひき、少しきたない水に住む生き物のコオニヤンマ11ひき、トビケラ5ひき、ヒラタドROMシ2ひきが見つかりました。このことから、長木川の水はきれいとしきれいの中あたりとわかりました。また、エビの仲間やドジョウ、ウグイの稚魚、珍しいと言われているトゲウオ2ひきも見つけることができました。その後、学区を流れる犀川と引欠川でも調べてみると、ドROMシの仲間やヒルが見つかり、バックテストでは4~6の値を示し、少し汚れていることがわかりました。



3 考察と感想

川の水質によって、見られる生物の種類が変わってくるということがわかりました。大館の川は、山間ではきれいでしたが、市街地に入ると水が少し汚れていました。大館の川はいつまでもたくさんの生き物が見られる豊かな川であってほしいと思いました。

5年 藤島 陽苗

「環境を守るってどういうことだろう。」私たちの学校で行っている環境を守るための様々な取り組みを紹介します。はじめに、育林活動です。毎年、五月に学習林に杉の苗を植樹、夏は親子で草刈り作業、秋には杉がまっすぐに育つように枝打ち、冬は倒れた木の雪起こしをします。この前の森林教室で、鷹巣森林事務所森林官の津島さんから「森林は一秒間に学校のグラウンド一個分、消えています。だから皆さんが木を植えることはとても大切な活動です。また、水を蓄え魚を育てる役割も持っています」とお話がありました。私たちが行っている育林活動は、私たちの住む地球のおいしい空気をつくり、自然環境を守ることに繋がっているんだと思いました。次に、EM菌を利用した活動について紹介します。今年からEM菌を使ったプール掃除に取り組んでいます。EM菌は、プール掃除や花壇の肥料としてとても役立っています。汚れがみるみるうちに取れ、とても効果がありました。材料である米のとぎ汁もそのままでは、川を汚すものになります。環境にも優しくエコな資源にもなることを初めて知りました。他にも田んぼの生き物調査も昨年に引き続き取り組みました。そこで私たちは、美しい自然環境を守るために、今後「自分から」「続けること」を合い言葉に取り組んでいきます。



私たちの学校は「いたての森」の中にあります。この森をフィールドにして、全校児童40名で活動しています。低学年は「森の中での活動」、高学年は「環境を考えた活動」をテーマとして、「阿仁川の水質調査」、「いたての森の生きもの探検隊」などの活動をしてきました。また、全校で、学校周辺の自然や文化を題材とした「いたてっこ学習」や環境にやさしい「EM菌を活用したプール掃除」も行いました。これらの活動は、北秋田市や大館北秋田の理科研究発表会や学習発表会などで発表しました。



水質調査

【阿仁川の水質調査】水生昆虫とバックテストを中心に阿仁川の水質調査をしました。結果は、きれいな川でしたが、少し汚い水に住む水生昆虫が増えていることがわかりました。このことから、水質が低下してきているのではないかと心配です。そこで、阿仁川の周辺で生活している地域の人たちにもEM菌を使ってもらおうと、自分たちで作ったEM菌培養液を渡しました。どんな変化が出てくるか継続して調査していきたいと思います。

【いたてっこ学習】今年度は、自然関係と文化関係に分かれて活動しました。いたての森の植物や動物をグループに分かれて調べました。樹木や草花などを調べ絵地図にまとめたりしました。調べてみて、学校周辺にニホンタンポポがあることがわかりました。この森をこれからも大切にしていきたいと考えています。



これはなんだろう？

第四小学校 4年部エコクラブ

1 主な活動

第四小学校4年生は、8月31日に米代川へ行き水質調査を行いました。4年生93名が3つのグループに分かれて米代川にいる水生生物を採取し、その種類によって川の水が汚れているかどうかを調べました。

採取した水生生物は、ヒラタカゲロウなどきれいな水にすむ水生生物がほとんどでした。みんなで協力しながら楽しく活動することができました。

2 子どもの感想

わたしは、川に行く前に、「米代川の水はきれいだ」という予想を立てました。わたしたちのグループでは、3種類の水生生物を見つけました。そのうち、きれいな水にすんでいる水生生物は、ヒラタカゲロウとブユの2種類でした。よごれた水にすんでいる水生生物はニホンドロソコエビ1種類でした。きれいな水にすんでいる水生生物の方が多かったため、川の水はきれいだということがわかりました。わたしは、機会があれば、また川の水を調査しに行きたいと思っています。



朴瀬小学校こどもエコクラブ

能代市立朴瀬小学校

朴瀬小学校こどもエコクラブは、5年生8名で活動しています。
今年は、総合的な学習や理科、家庭科の学習の中で主に2つの活動に取り組みました。

1 朴瀬の水を調べよう

市販のバックテストを使い、学区内を流れる米代川とその支流（築法師川）、学校周辺の沼や学校のプールの水、井戸水などの水質調査を行いました。

調べた結果、学校周辺の川や井戸水はどれもきれいで安心しました。

結果を、能代市のふるさと学習交流会で発表し、斉藤能代市長さんからもお褒めの言葉を頂きました。



2 エコクッキングに挑戦

学校の農園で栽培したサツマイモを使い、エコクッキングに取り組みました。

エコクッキングのテキストやインターネット上のレシピを参考に、皮まで使うことや油をできるだけ使わないことなどに気をつけて調理を行いました。

調理したいろいろなメニューを、農園の管理に協力して下さった地域のおばあさんたちに食べてもらったところ、大変好評でした。またその際に、昔ながらの「きんとん」の作り方を教えていただき、昔の料理がすでに「エコクッキング」であったと感ずることができました。



桜小学校こどもエコクラブ

秋田市立桜小学校

桜小学校こどもエコクラブは、今年度から正式に登録をして活動を始めたクラブです。全校児童897名全員が登録し、様々なエコ活動に取り組んできました。特に今年は、東日本大震災の影響で、夏の節電活動が求められた年でした。節電は、地球温暖化防止のために、みんなでできることとして、今までも省エネ活動として取り組んできたことでした。しかし、今回は、被災地の皆さんのことを考えれば、もっとできることがあるのではとみんなで考え、教室の窓側の蛍光灯は使わない、廊下の蛍光灯を1本ごとに間引くなどの取り組みも始めました。この取り組みは、現在も継続しているし、これからも継続していかなければならないことだと思っています。

また、植物の光合成によって地球温暖化の原因であるCO₂濃度を減少させるために、緑化活動にも力を入れました。前庭はアスファルトに覆われていて花壇を作るスペースがないため、プランターが中心でしたが、フラワー委員会の子どもたちが世話をしたおかげで夏の猛暑も乗り越え、初秋にはきれいな花を咲かせました。また、ゴーヤを植えて、緑のカーテンにも取り組みました。これらの活動は、秋田市緑化コンクール、全県花壇コンクールで優良賞をいただくこともできました。



桜っ子は、これからもみどりの地球を守るためにがんばります！

わたしたちの飯田川小学校は潟上市の北部にあり、地域内を八郎湖に流入する豊川（ゆたかがわ）が流れています。飯田川小学校では25年以上前から毎年夏に5・6年生が中心となって豊川の簡易水質調査を行ってきています。調査している項目は、生息している水生生物を中心に、COD、pH、水温、川幅、流れの速さや川底の様子などです。

今年度も8月1日に7か所のポイントで調査を行いました。最下流の八郎湖川口では、数日続いた猛暑の影響からか、一面にアオコが発生しており、採取された生物もごくわずかでしたが、上流に向かうにつれて水が冷たく澄んでいき、採取される生物も増えていきました。最上流部の大沢橋では、きれいな水にしか住めないサワガニやカワゲラなども見つかり、わたしたちの学区を流れる豊川は、豊かな自然の中で環境が守られているのだということを感じることができました。

【参加した子どもの感想】

私は去年に続いて2回目の参加でした。去年に比べるとどこの地点も水温が高くて生物が少ないという印象をもちました。・・・中略・・・調査をして分かったことは、下流から上流に行くにつれて水温が低くなり流れの速さも速くなるということ、川や川のまわりの環境が整っていなければ生物が住み着くことができないということです。これからも川をきれいにする活動を積極的に行い、生物をもっと増やせるようにしていきたいです。



五城目小学校エコクラブ

1 クラブ紹介

五城目小学校エコクラブは、5月から11月まで実施されている自然科学クラブと7月から8月にかけて行われる馬場目川水生生物調査隊の2つからなっています。自然科学クラブは、地域の自然観察を目的とし、野鳥の森、五城目城を2回ずつ訪ねています。一方、馬場目川水生生物調査隊は、生息している水生生物をもとに水質を調査することを目的とし、馬場目川、富津内川、内川川の15調査地点で調査を実施しています。



2 子どもたちのコメント

- ふだん見ている川の中に、たくさんの生き物がすんでいてとてもびっくりしました。
- 川にすむ生き物のために、川へゴミを捨てたりしないで、自然をこわさないようにしたいと思います。
- 野鳥の森で、指導員の先生に食べられる植物のことを聞き、その多さに驚きました。



3 サポーターからのコメント

五城目町の恵まれた自然環境の中での体験を通して、あらためて発見したことも多かったようです。自然の中での活動には、とてもいきいきと取り組んでおり、ふるさとのよさを十分に味わうことができたと思います。環境や自然に対する意識も高まった事と思います。

井川小学校自然観察クラブ

井川町立井川小学校

自然観察クラブでは、井川小学校の周りの自然とふれあいながら活動を進めています。今年度は自然の観察の他、樹木の名札作りなどの活動も行いました。また、カヌー体験も行っています。そういった活動の他、夏季休業中に井川町を流れる井川の水生物調査も行いました。毎年行われているこの活動は、井川の水質調査として貴重な資料となっています。メンバーは毎年替わりますが、どの子も楽しく活動することができました。

《子どもたちの感想》

- ぼくは水質調査をやって、井川の水はきれいだと思います。井川にはコオニヤンマやトビケラなどがたくさんいました。ぼくが残念だったことは、ヘビトンボやサワガニを見つけられなかったことです。また水質調査を試みたいです。そしてこれからも井川の水がきれいでいられるように気を付けたいです。
- 水質調査に行っているいろいろなことがわかりました。大台ではヒラタカゲロウやトビケラを見つけました。サワガニは残念ながら見つけることができませんでした。井内にも似た生き物がいました。大台と井内の水はきれいだなと思いました。これからも井川の水を大切にしたいと思いました。また水質調査に行きたいです。



西目小学校シーガルエコクラブ

由利本荘市立西目小学校

私たちの西目小学校は、今年度全校児童328人全員が、シーガルエコクラブのメンバーとなって活動に取り組みました。

【空き缶回収】 5・6年生が中心となっているJRC委員会が、毎朝玄関ホールに大きなキャスター付きの箱を準備し、空き缶回収をしています。全校児童は、各家庭から空き缶（アルミ缶・スチール缶）を持って登校して来てくれます。

【全校外そうじ】 西目小学校では、年5回くらい愛校日を設定し、校地内（親水公園を含む）の外そうじを行っています。「燃えるごみ」「燃えないごみ」と分別しながら拾ったり、落ち葉を掃いたりして学校周辺環境や水環境を全校で守っています。

【水質調査】 冒険クラブでは、水質調査および生物生息状況調査を行いました。実際にヤリタナゴやドジョウ、コイ、ボラ、モズガニなどたくさんの生き物を採取し、観察することで改めて西目川に生息する生物の豊かさに気付きました。



直根小学校エコクラブ

由利本荘市立直根小学校

直根小学校では、毎年4・5年生の子どもたちがエコクラブのメンバーとなって子吉川の水質調査活動をしています。今年度も昨年と同様、烏海山の5合目（竜ヶ原湿原）を出発点に、布沢→下玉田川→法体の滝の順で水質検査を行い、変化が見られるかどうかを調べました。水質は、pHとCODのバックテストで調べました。

結果は、昨年と似たような数値で、烏海山の5合目と法体の滝周辺の水は弱酸性（pH5.5～6.5）の性質で、CODの値は2～4でした。どの地点の水も澄みきっていて、大変きれいでした。特に、竜ヶ原湿原の水はとても冷たくて、川面にゆれる水草が美しく、とても感動しました。

上流の水質はとてもきれいなことがわかった子どもたちは、自分の家の近くの川に関心が移り、子吉川の支流の直根川の上流から子吉川と合流する辺りまで調べることにしました。川の汚れの主な原因が家庭雑排水であることを学んでいる子どもたちは、ある程度の水質悪化を予想していました。結果は、調べた6ヶ所とも見た目もきれいで、CODの値は4～6と汚れていませんでした。pHは、6ヶ所とも中性でした。直根川もきれいだったのは、各家庭で汚れた水を直接流さないように気をつけているからだろうと考えました。この活動を通して子どもたちは、きれいな川を守っていくという意識をさらに強めることができました。



東由利小エコクラブ

由利本荘市立東由利小学校

23年4月6日に開校した東由利小学校4年生では、「知ろう ふるさとの森」というテーマで総合的な学習をしました。

5月：里山スクール（山遊庭の森）

保育園児、地域や地域振興局のみなさんと植菌作業を行いました。また、あけびの授粉にも挑戦しました。森林に関する〇×クイズをし、盛り上がりました。

10月：あけびときのが収穫でき、味わいました。

11月：栗や杉を150本ほど植えました。太い根に邪魔されて植えるのが大変でした。二分の一成人式の今年植えた杉や栗が、10年後の成人式にどれくらい成長しているか楽しみです。

ぼくたちの東由利地域は、昔から林業がさかんで、木材を使った産業もあります。「森林は 豊かな地球のお母さん」と感じる事ができた学習でした。



5 / 9 植菌作業



11 / 2 植林作業

平沢小サイエンスクラブ

にかほ市立平沢小学校

平沢小サイエンスクラブは、6年生12名、5年生3名、4年生2名で活動しています。

主な活動は、水曜日の6校時ですが、夏休みや冬休みなどには、校外での活動も行っています。今年度取り組んだ実験は、ブーメラン、カルメ焼き、スライム作り、CDホッケーなどです。日常の身近な材料を使って、もの作りをしています。ロボコンにも参加して、他校と競い合いました。

また、身近な自然にも関心をもって調べる活動も行いました。

地域の川には、多くの生物がすんでいました。その結果から、今はきれいな川であることが分かりましたが、川の中にはゴミも多く見られ、地域の自然を守っていくことの大切さを感じています。

毎年、クラブのメンバーは変わりますが、自然の大切さや科学の楽しさを学校内に伝え、みんなで実践していけるとよいと思っています。



ロボコン



川の観察

藤木小学校エコクラブ

大仙市立藤木小学校

ドリームワールド環境編：環境教育の一環として、未来に残しておきたい理想の自然環境を校庭に描くことで、持続可能な社会構築の意識付けとなりました。

ふるさとの川を探る：藤木地区を流れる川の環境を調査する活動を通して、地元の環境を大切にすることを育てるという目的で、地域の川の水質（pH）や水生生物、川岸の動植物などを調べ、調査結果の違いやその要因などを考察し、自分なりの考えをまとめました。



エコドリームワールド

《全体活動計画（◎は小・中連携の取組、○は近隣小学校との合同または同内容）》

対象学年	主な内容
全校	・グリーンカーテン（自分たちでできる環境工夫を行う） ・ドリームワールド環境編（残したい環境を校庭の絵で表現する） ◎小・中合同クリーンアップ（地域の環境をきれいにする実践）
2・3年	・エコクッキング（外部講師を招き、地域食材の調理や片付けを学ぶ）
3・4年	○これがソーラーカーラリーだ！（大湯村で開かれるワールドソーラーカーラリーの見学と大曲工業高校製作ソーラーカーの見学）
4年	・大仙市エコチャレンジ運動「子どもといっしょにはじめよう！暮らしのエコチャレンジ」をかねて、家庭のエコ実践を調査する。
5・6年	◎小・中連携環境デー（近隣小・中との連携でエネルギー学習を行う）
6年	・ふるさとの川を探る（地元の川の水質調査）

1 テーマ 「大発見！米づくりから見える わたしたちの環境（5年生）」

2 取組の実際

- 5月に、昔の道具「かだっこ」を使い実際に代かきを体験し、その後に田植えをしました。その後、6月下旬にJAさんから協力を頂いて「田んぼに住む生き物調べ」を実施。
- 10月、鎌を使っての稲刈り。天秤ばかりで量ったら脱穀した米の重さはなんと、190kgでビックリしました。11月には、田んぼの講師のみなさんをお招きして、収穫したお米でおにぎりをつくりました。また学校の畑でとれた野菜を使って「豚汁」をつくってふるまうなど、収穫祭を行いました。みなさんに喜んでいただき、うれしくなりました。



3 サポーターからのコメント

学校田には約80種類の生き物がおり、中には、ゲンゴロウやカワニナなどのめずらしい生き物も生息していました。つまり、生き物にとって、田んぼはなくてはならない役目を果たしているのだということを知りました。田んぼは、それ以外にも「地下水の確保」、「小さなダム役目」、「気温上昇の防止」、「温暖化の防止」など重要な役目を果たしていることがわかりました。

「ハチドリの一とすく運動2年目 ～川は誰のもの？ ふるさとの川役内川を守ろうⅡ～」



生物調査の様子

横堀小学校では、環境を守るために自分ができることをしようとする「ハチドリの一とすく運動」に取り組んで2年目になった。昨年からはエコクラブ（ネイチャークラブ）は、ふるさとの川「役内川」を調査し、水質の良さや生物の多様性について全校に知らせ、この環境を守ることの大切さを呼びかけてきた。今年度は「エコクラブ活動重点校」に選んでいただき豊富な観察用具等をいただけたことで、観察の範囲を広げて研究を深めることができた。その結果を校内だけではなく、祖父母参観日で地域の方々や秋田大学で全県理科研究発表大会の参加者に伝えることができた。

○今年の発見から…

- ①生物の種類は変化は無かったが、個体数が減っている種があった。
- ②水質は少々悪化しているところもあったが、雄物川源流地点はよい水質が保たれ、カワゲラ類やヨコエビが昨年度より多く見つかった。
- ③役内川の源流近くでは【生きている化石】の「ムカシトンボ」が生息している。
- ④イバラトミヨの保護池が水質も周りの環境も変わっていて残念だった。酸性よりになった水中で生きるイバラトミヨを発見できて感激した。



ムカシトンボのヤゴ



見つかったイバラトミヨ

○来年度の活動計画は…

- ①役内川と同じく雄物川の支流となっている、高松川・皆瀬川・成瀬川の水質や生き物を調べ、役内川と比べてみたい。
- ②雄勝地区に、「イバラトミヨ」がすんでいる所が他にないか、地域の人の協力を得て調査したい。

仙道小学校サイエンスクラブ

羽後町立仙道小学校

仙道小学校サイエンスクラブは、6年生5名、5年生1名、4年生3名のクラブです。今年度は、自然環境を調べる活動として、学校の裏山の植物採集、近くを流れる川の水生生物採集と水質検査に取り組みました。また、科学実験として、べっこう飴・スライム・空気砲づくり、火起こしに取り組みました。特に、川の水生生物採集と水質検査を今回初めて体験する子どもが多く、大変意欲的に活動していましたので、感想を紹介します。

～子どもたちの感想～

「生活排水が流れ込む川なので生物があまりいないと思っていたけれど、メダカ、タイコウチ、ヤゴ、カワゲラ、ハリガネムシなどたくさんの水生生物がいて、おどろきました。」「パックテストで調べてみたらCODが6～8で、予想通り川の汚れがひどかったです。もう少しきれいな水だと思っていたので残念でした。」「もっとメダカや水生生物の多い川にしたいので、きれいな川にする方法を考えていきたいです。」

身近な川を調べる体験が、地域の自然環境について深く考えるきっかけとなりました。これからも活動を通して、子どもたちが、地域の自然環境を守り育てる気持ちを高めていくことを願っています。



鳳中学校科学部

横手市立鳳中学校

2年前から継続して、主に学校の近くにある七日市沼の水質浄化活動に取り組んでいる。生活排水が流れ込んで水質の悪化が進み、アメリカザリガニやウシガエルなどの外来種が増えて沼の生態系が変化している。かつての多様な生物が生息していた環境を取り戻すために、私たちは七日市沼の浄化作戦を行った。昨年に引き続き地域の方々と共にEM（有用微生物群。水質浄化効果があるといわれる）を使用した水質浄化活動や、今年度からは野菜いかだの制作や、カキガラ、備長炭を使用した水質浄化実験に挑戦した。

EM団子投入後は、CODの値が下がりその後も上がることなく、水質の改善が見られた。また、空芯菜（クウシンサイ・ヨウサイ）を植えた野菜いかだを沼に浮かべたり、カキガラや備長炭の水質浄化効果を実験したりした。これらの取り組みを通して、少しずつ七日市沼もきれいになりつつあるので、これからも調査を継続し、多様な生き物が生息する七日市沼を取り戻していきたい。



かべしんぶん

ここで紹介する壁新聞は、こどもエコクラブが普段の活動や環境について調べたことをまとめ、エコクラブのなかまや地域の人たちに紹介するためにつくったものです。



マックスバリュ東北・秋田イオンチアーズクラブ

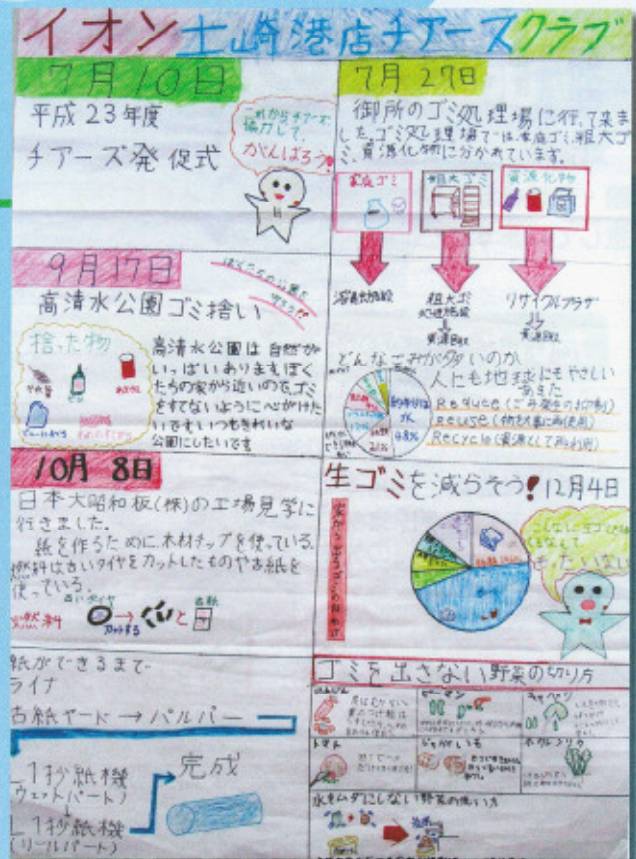
活動は楽しく、協力しながら仲良くできました。いろいろな大人の人に協力してもらい、ケガをしないで活動ができました。自分たちの活動を振り返ってみて、未来について「こうなってほしいな」と思うことにつながっていることが分かりました。

手から始まる絆とsmileは、自分たちの未来は自分たちの手で輝くようにしていきます。

イオン土崎港店 チアーズクラブ カモメ

イオン土崎港店チアーズクラブは、子どもの健全な育成を目的として、幼いときから環境問題に興味をもつことができるよう、身近にある環境に関することを見たり聞いたりする体験をたくさんしてました。

今年度は、秋田市御所野のゴミ処理場を見学したり、製紙工場のリサイクル現場を見学したり、地域の公園の清掃をしたり、町内会の方々と交流会をしたり、いろいろなことを勉強しました。新聞作りも楽しんでできました。楽しみながらエコについて勉強することは、将来のためにとっても大切なことだと思います。



ひろおもてエコクラブ

自分たちの住んでいる地域を知り、大切にしてもらいたいという思いで、この1年間を活動してきました。新聞づくりは、それぞれ今年印象に残ったことや、皆に伝えたいことなどをカードにまとめ、4年生以上が集まり相談しながら完成させました。

集まったメンバーは、皆が書いたカードを読み整理し、皆に伝えるためにどんな見出しや写真がいいかなどを意見を出し合いまとめました。普段の野外での活動とは違って大変な面もありますが、継続して活動しているメンバーが、学年があがるごとにリーダーシップを発揮できるようになってきている様子を見ると頼もしいですね。

「環境の達人」を派遣しています

「環境の達人」地域派遣事業とは、市町村、学校及び住民団体等が主催する講演会、学習会等へ、環境問題・環境保全に関する講師を派遣する事業です。「環境の達人」は、小学校の理科や家庭科のメニューも用意しています。

たいようでクッキング!

45分

3年理科 教科書p.80関連

ねらい

太陽光の熱エネルギーを集めて調理が出来ることを体験し、太陽の光や熱について関心をもつ。



プログラム例

- ①市販のソーラークッカーでつくったポップコーンを食べる。
- ②手作りソーラークッカーをつくる。
- ③太陽の光や熱を利用した例を考える。

学校で準備するもの

温度計、アルミ紙（ガスコンロの下敷きなど）ホチキス（クリップ）、マーカー、はさみ、定規、空き缶、500ccペットボトル

ドライアイス博士になろう!

90分

4年理科 教科書p.119関連

ねらい

二酸化炭素も、固体・液体・気体にすがたを変えることを実験で確かめる。また、二酸化炭素が地球温暖化に関係のあることを知る。



プログラム例

- ①ドライアイスの基本を学ぶ。
- ②二酸化炭素の三態の実験（普段見ることのない液体CO₂も観察します。）
- ③二酸化炭素が地球を暖めるしくみを知る。

学校で準備するもの

氷、ガラスビーカー（大きめのもの）各班2個、メタノール（500mL）1本、P C、プロジェクター、スクリーン

枯葉と小枝・木の実のファッションショー

90分

4年理科 教科書p.85関連

ねらい

秋の植物のようすの変化に興味をもち、木々の生命力に気づく。



（写真：秋田市提供）

プログラム例

- ①枯葉や木の実、小枝を集める。
- ②名前を調べる。
- ③モデルを決めデザインをする。
- ④ゴミ袋に枯葉などをはりつける。
- ⑤ファッションショーをする。

学校で準備するもの

枯葉、小枝、木の実、ごみ袋、ガムテープ、セロテープなど

節電名人に挑戦!

45分

6年理科 教科書p.148関連

ねらい

電気を作り出す体験を通し、電気の大切さと節電の必要性に気づく。



（LED 蛍光灯 白熱電球 ハロゲン球）

プログラム例

- ①手回し発電機でいろいろな電気器具を動かす。
- ②白熱電球、電球型蛍光灯、LEDの消費電力を予想する。
- ③いろいろな節電方法を考える。

学校で準備するもの

P C、プロジェクター、スクリーン

地球温暖化とその影響！

45分

6年理科 教科書p.168～173関連

ねらい

最近の気候の変化と地球温暖化の影響について理解し、環境保全のために自分たちができることを考えることができる。

プログラム例

- ①100年間の地球の気候変化と、人間生活への影響の話を聞く。
- ②地球温暖化の原因を考える。
- ③私たちにできることを発表しあう。



学校で準備するもの

PC、プロジェクター、スクリーン

買い物でエコ！

45分

5・6年家庭科 教科書p.70～72, p.92～95関連

ねらい

毎日使っている商品は、製造工程や運搬、廃棄に至るまで環境に影響を及ぼしていることを知る。



出典：環境省
株式会社三善総合研究所

プログラム例

- ①カードを使い買い物ゲームをする。
- ②カーボンフットプリントについて考える。
- ③商品の一生から環境を考える。
※カーボンフットプリント：商品の一生（生産から破棄）で排出されるCO₂を商品にマークで表示するしくみ。

学校で準備するもの

PC、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード

エコ博士になれるかな！

45分

5・6年家庭科 教科書p.92～95関連

ねらい

人の生活と環境の関わり方を考え、環境を守るための工夫やヒントを見つける。



プログラム例

- ①毎日の生活についてクイズに挑戦しながら環境にやさしい生活のためのヒントを見つける。
- ②省エネしている家としていない家を比べ、その違いを考える。
- ③ふりかえり。エコ博士になれるかな？

学校で準備するもの

PC、プロジェクター、スクリーン

水はユニークな物質！

45分

6年理科 教科書p.168～173, 5年理科 教科書p.110～115関連

ねらい

実験を行い、水は地球にも人間にも必要な物質であることに気づき、生き物と環境のかかわりについて考えることができるようにする。



プログラム例

- ①生き物と水の関係の話を聞く。
- ②水の性質について観察、実験をする。
 - ・氷は水に浮くこと。
 - ・水は4℃で一番重くなること。
 - ・水は様々な物質を非常に良く溶かすこと。
- ③まとめ。「地球は水と生命の惑星」

学校で準備するもの

PC、プロジェクター、スクリーン、ガラスビーカー（500mLまたは300mL/各班1個）

※ここに掲載したのは活用例です。学校の実情に合わせて適宜プログラムを変更できます。また、メニュー以外の達人の派遣もたくさん用意しています。

連絡先：秋田県環境管理課 ☎018-060-1571

こんな派遣もあります。

これまでの「環境の達人」から

大豆のヒミツを探ろう

とうふ作りに挑戦しました。いつもお店から買ってきただけだったので、自分たちでもできるとは思っていませんでした。とてもおいしかったです。



地球環境について調べよう

温暖化ガスを減らす工夫について教えてもらいました。

一つ目は、「ふるしき」をエコバッグに変身させるものです。折って結んで、とても簡単にバッグができることに驚きました。二つ目は、古紙を使った入れ物作りです。なかなか難しい折り方に、四苦八苦しましたが、休み時間に友だちから教えてもらったりして楽しい時間を過ごしました。



エコの達人になろう

いつも何とも思わずに生活している中には、地球温暖化を防ぐために自分達でできることがたくさんあることがわかりました。家庭を写した自分の身長よりも大きなパネルを見ながら、自分のお家のことと比較しながら考えました。見ないときにもテレビをつけている、誰もいないのに部屋に電気がついている、ゴミ箱にたくさんの紙が入っている、など気づくことがたくさんありました。



夏休み親子環境学習

小学生とその保護者が、夏休み中、湯の台・小方角沢湿原へ行き、日本最小(体長約18mm)のトンボであるハッチョウトンボやとてもめずらしいオゼイトトンボを観察してきました。また、サギソウ、モウセンゴケ、キンコウカ、ミズゴケなどの湿原植物も数多く見られました。豊かな自然が身近な場所にあることに驚きました。



ろうそく作りに挑戦

結婚式場などで残ったろうそくのかげらを材料にして、オリジナルのろうそく作りに挑戦しました。

かけらをなべで熱し液状にしてから、しんを取りのぞきました。クレヨンをけすり、ろうに加えてかき混ぜ、色をつけました。星やハート形などの好きな器に入れて少しさまして、しんを入れました。30分ほどで、緑や赤のカラフルな手作りろうそくのできあがりです。



未来の子どもへ伝えるストーリー

環境の話聞いてから、外に出て自然のものを3つ探しました。グループになり、画用紙に集めたものを貼り付けながら、ストーリーを考えました。未来から現代にタイムスリップし不足している食料を求める「地球を守ろう」、新しく発明された未来のロボットは自然のものが使われているという「ドラえもん」、など子どもならではの発表がありました。



対象となる
講演会・学習会等

- ・同一の主催者に対し、同一年度において2回までの派遣となります。
- ・実施日の1ヶ月前まで、申し込みください。

楽しみながらエコを学ぼう

あきたエコ&リサイクルフェスティバル

このフェスティバルは、大人から子どもまで、楽しみながら、環境やエネルギーの問題について学習することができる機会を提供することを目的として行っています。平成23年度は、9月3日と4日「みんなの『少し』が大きなチカラ！」をテーマとして、秋田駅前のアゴラ広場と買物広場を会場として開催されました。

地球温暖化防止、リサイクル、省エネ、新エネなどの取組を行っている企業や団体が、工夫を凝らした活動紹介を行ったほか、今回は節電に関する情報提供も積極的に行われました。また会場では、おなじみのスタンプラリーのほか、エアロバイク発電チャレンジ、節電量チェッククイズなどに多くの小学生が参加したほか、打楽器奏者山口ともさんによる廃品打楽器パフォーマンスや秋田ノーザンハピネッツの選手とのフリースロー大会など、参加者それぞれ、楽しい2日間を過ごしました。



ぐるぐるCOOLフェスティバル

このフェスティバルは、一般社団法人あきた地球環境会議とNGO RASICAが主催したもので、平成23年10月22日（土）に秋田県中央地区老人福祉総合エリア（中央エリア）で行われました。「かだれ、エコ系キッズ！」というサブタイトルがあり、子ども用の体験コーナーや大人向けのシンポジウム、電気自動車の試乗など、子どもから大人まで秋田の知的好奇心を満たすエコなブースが満載のエコフェスティバルでした。この会場の駐車場脇の雑木林を使って、当日の午前中に環境学習ワークショップが行われ、秋田市内のエコクラブを中心にたくさん子ども達が参加しました。雑木林内で自然物を採取するネイチャーゲームを行い、地球温暖化と環境の問題を考えました。そのあと、室内に移動し、採取した自然物を使って未来の絵を描き、ストーリーをつけて発表しました。地球温暖化や自然環境の大切さを考える1日となりました。





平成23年度 登録クラブ一覧

No.	クラブ名	会員数	サポーター数	市町村名
1	マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブ	17	7	秋田市
2	ひろおもてエコクラブ	15	7	
3	山谷小エコクラブ (秋田市立山谷小学校)	27	4	
4	せいれいエコクラブ (秋田市聖霊幼稚園)	76	11	
5	第二ルンビニ園ちびっこクラブ (秋田市第二ルンビニ園)	91	9	
6	かもしか戦隊エコレンジャー	2	1	
7	浜田小エコクラブ (秋田市立浜田小学校)	99	16	
8	戸島小学校エコクラブ (秋田市立戸島小学校)	79	13	
9	ハッピー☆ハッピー	4	2	
10	岩見三内中学校エコクラブ (秋田市立岩見三内中学校)	50	1	
11	若駒学童クラブ	47	1	
12	イオン土崎港店チアーズクラブ カモメ	14	3	
13	あきたみどりフレンド	30	4	
14	旭川小学校エコクラブ3年 (秋田市立旭川小学校)	93	3	
15	秋田東中学校科学部 (秋田市立秋田東中学校)	30	1	
16	附属中学校情報・科学部 (秋田大学教育文化学部附属中学校)	12	1	
17	四ツ小屋小学校4年 (秋田市立四ツ小屋小学校)	57	2	
18	さくら冒険王こどもエコクラブ	28	3	
19	保戸野児童館まめまめ隊	55	5	
20	旭北児童館こどもエコクラブ	35	2	
21	港北児童センターこどもエコクラブ	106	3	
22	旭南児童館こどもエコクラブ	74	3	
23	泉児童センターこどもエコクラブ	93	3	
24	日新児童館こどもエコクラブ	40	3	
25	川尻児童センターこどもエコクラブ	100	3	
26	桜小学校こどもエコクラブ (秋田市立桜小学校)	895	54	
27	第四小学校4年部エコクラブ (能代市立第四小学校)	93	3	能代市
28	朴瀬小学校こどもエコクラブ (能代市立朴瀬小学校)	8	1	
29	マックスバリュ東北横手チアーズクラブ	19	3	横手市
30	雄物川北小学校エコクラブ (横手市立雄物川北小学校)	20	3	

No.	クラブ名	会員数	サポーター数	市町村名
31	鳳中学校科学部 (横手市立鳳中学校)	8	1	横手市
32	花岡小ひまわりクラブ (大館市立花岡小学校)	24	2	大館市
33	大館南こどもエコクラブ (大館市立南小学校)	144	14	
34	雪沢小学校タケノコクラブ (大館市立雪沢小学校)	7	3	
35	五里合4松エコクラブ (男鹿市立五里合小学校)	11	1	男鹿市
36	横堀小学校エコクラブ (湯沢市立横堀小学校)	15	2	湯沢市
37	ボーイスカウト秋田第26団・花輪	16	9	鹿角市
38	八幡平中学校エコクラブ (鹿角市立八幡平中学校)	15	1	
39	直根小学校エコクラブ (由利本荘市立直根小学校)	14	2	由利本荘市
40	西目小学校シーガルエコクラブ (由利本荘市立西目小学校)	322	19	
41	東由利小エコクラブ (由利本荘市立東由利小学校)	111	8	
42	飯田川小学校エコクラブ (潟上市立飯田川小学校)	222	15	潟上市
43	大曲小学校自然発見クラブ (大仙市立大曲小学校)	25	1	大仙市
44	マックスバリュー東北大仙チアーズクラブ	8	3	
45	角間川小学校エコクラブ (大仙市立角間川小学校)	14	2	
46	藤木小学校エコクラブ (大仙市立藤木小学校)	85	14	
47	鷹巣南小学校エコクラブ (北秋田市立鷹巣南小学校)	118	8	北秋田市
48	いたてエコクラブ (北秋田市立合川西小学校)	42	13	
49	平沢小サイエンスクラブ (にかほ市立平沢学校)	20	1	にかほ市
50	藤里小エコクラブ4年 (藤里町立藤里小学校)	28	2	藤里町
51	藤里小エコクラブ5年 (藤里町立藤里小学校)	26	2	
52	藤里小エコクラブ6年 (藤里町立藤里小学校)	30	2	
53	塙川小学校エコクラブ (八峰町立塙川小学校)	63	14	八峰町
54	五城目小学校エコクラブ (五城目町立五城目小学校)	34	8	五城目町
55	井川小学校自然観察クラブ (井川町立井川小学校)	13	3	井川町
56	六郷中学校科学部 (美郷町立六郷中学校)	8	1	美郷町
57	げんきっこエコクラブ (羽後町立元西小学校)	52	10	羽後町
58	仙道小学校サイエンスクラブ (羽後町立仙道小学校)	9	4	
合 計		3793	340	

平成24年2月29日現在

JEC 登録用紙



↑ FAX送信方向

登録番号 ※この番号はこどもエコクラブ全国事務局で記入します。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

記入日： 年 月 日

クラブ名		メンバー人数 (子ども)	人	
		サポーター人数 (大人)	人	
メンバー学年内訳 <small>※年齢・学年は年度当初(4月)時点を記入してください。 ※高校生記入欄は、同年齢のメンバーも各学年にあてはめて、記入してください。サポーターとしても登録できます。</small>	■ 幼児(3歳)	人	■ 幼児(4歳)	人
	■ 小学1年生	人	■ 小学2年生	人
	■ 小学4年生	人	■ 小学5年生	人
	■ 中学1年生	人	■ 中学2年生	人
	■ 高校1年生	人	■ 高校2年生	人
			■ 幼児(5歳)	人
		■ 小学3年生	人	
		■ 小学6年生	人	
		■ 中学3年生	人	
		■ 高校3年生	人	
代表サポーターの連絡先	氏名		JEC活動年数 年目 <small>※今年はじめて登録する場合、1年目と記入してください。</small>	
	住所 〒			
	TEL	FAX		
	E-mail			
ツール <small>※クラブ単位でいくつかを並び替えてください。</small>	活動記録シート&ニュースレター (<input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要) <small>※不要とした場合にも、ツールは1部届きます。</small>			
グループの種類 <small>※該当するものに✓をしてください。</small>	<input type="checkbox"/> 近所や地域のお友達 <input type="checkbox"/> 家族・親戚 <input type="checkbox"/> ボーイスカウト・ガールスカウト <input type="checkbox"/> 子ども会 <input type="checkbox"/> 児童館や公民館のクラブ <input type="checkbox"/> 自治体の募集 <input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園 (<input type="checkbox"/> クラス <input type="checkbox"/> 全園) <input type="checkbox"/> 学校の (<input type="checkbox"/> クラス <input type="checkbox"/> クラブ <input type="checkbox"/> 委員会 <input type="checkbox"/> 学年 <input type="checkbox"/> 全校 →学校名: _____) <small>※総合学習としての実施についても記入してください。(<input type="checkbox"/>YES <input type="checkbox"/>NO) ※異クラス混合の場合は学年へ、異学年混合は全校へ✓をしてください。</small> <input type="checkbox"/> その他 (_____)			

メンバー・サポーターになると

- メンバーには環境記録シート、ニュースレターなどの活動役立つツールが、代表サポーターには応援マニュアルなどが届きます。(ツールは、希望に応じてクラブ単位で選択できます。)
- メンバースタンプを販売 [100円(送料・税込み)/個] しております。ご希望のクラブまたは地方事務局はウェブサイトをご参照ください。

注意事項

- 活動中の第三者への事故に対応するため、クラブの登録と同時に、全国事務局がメンバー・サポーターを対象とした賠償責任保険の加入手続きを行います。名簿の提出はメンバー・サポーターともに不要ですが、賠償責任保険の手続き上、必ずクラブで備えてください。
- サポーターが複数のクラブを担当している場合には、ツールの重複を避けるため、2つ目以降のクラブでは、サポーター人数としてカウントしないでください。
- クラブ名、代表サポーターの連絡先、メンバーの人数、クラブの解散等、登録内容を変更する場合は、こどもエコクラブ全国事務局または市区町村事務局に変更・解散届を提出してください。

● 個人情報の取り扱いについて (財)日本環境協会(以下、当協会という。)は、個人情報を尊重し、個人情報保護に関する法令及びその他関係法令を遵守するとともに、当協会の個人情報保護基本方針に則って個人情報を取り扱います。

1. 個人情報の利用目的: 当協会は、こどもエコクラブ事業(以下、本事業という。)を行うに当たり収集した個人情報を、ニュースレターや本事業の支援にかかる環境関連情報の資料等の配布、賠償責任保険等の運用に必要情報を管理、サービス改善のための事業(アンケート調査を含む。)の実施、新たなサービスや環境関連情報の発信、その他本事業の実施に付随する業務を行う目的の範囲内で利用します。なお、利用目的の達成に必要な範囲で業者に業務委託することがあります。ただし、必要な項目を正しくご記入いただけない場合、適切な対応ができないことをごましますのでご了承ください。

2. 個人情報の共同利用: 収集した個人情報は、本事業の地方事務局として登録した都道府県及び市区町村と上記1.の利用目的においてのみ共同して利用します。

3. 個人情報の管理: 収集した個人情報の漏洩、滅失、毀損または改ざんの防止、その他収集した情報の適切な管理を行います。また、事務局従業員及び業務委託先等に対して、個人情報の管理の指導と適切な監督を行います。

4. 個人情報の訂正・削除・開示: 収集した個人情報は、ご本人から登録されている個人情報について訂正・削除・開示の請求があった場合は、迅速に対応します。第三者から開示の請求があった場合は、ご本人の承諾がない限り開示しません。ただし、個人情報保護法第23条第1項、第4項およびその他の法令の規定に基づく場合は、この限りではありません。情報の訂正・削除・開示を希望される場合は、当協会こどもエコクラブ全国事務局までご連絡ください。

大人の方へ



お問い合わせ先

JEC こどもエコクラブは、子どもたちが誰でも参加できる環境活動のクラブです。
こどもエコクラブ全国事務局

財団法人 日本環境協会
 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9階
TEL 03-5643-6251 FAX 03-5643-6250

こどもエコクラブウェブサイト <http://www.j-ecoclub.jp/>



あなたのまちのこどもエコクラブ事務局(環境担当窓口)

この印刷物は、VOC(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インクを使用しています。

秋田県の環境に関する マスコットを紹介します



スギッチ

「スギッチ」は、秋田わか杉国体・秋田わか杉大会で大活躍をした後、秋田県のマスコットとして県職員になり、秋田県のPRや県政の広報、県民の元気を応援する活動をしています。秋田県マスコットとしての活動が認められ、2008年12月には主任に昇任しました。



森っち

秋田県水と緑のマスコットです。「森」の友だ「ち」という意味から「森っち」と命名しました。天然秋田スギの周りにつどい、ともに手を取り合い、身近な自然の中で「命の大切さ」を実感しているようすを表現しています。



あすぴー

地球温暖化防止を県民総参加で推進するためのマスコットキャラクターです。これを見たら「温暖化、なんとかしなくっちゃ!」と思って、具体的な行動・活動に結びつけていきましょう。あ:「あきた、す:ストップ・ザ・温暖化、ぴー:「ピー」ブル、みんなで!。秋田(AKITA)の「A」の擬人化をモチーフに、地球温暖化防止のために地球を抱きかかえ冷やしている姿をデザインしています。



クリンちゃん

秋田県の環境美化のマスコットです。星やハートなどの3つのマークは「花(ハート)・緑(葉)・夢(星)」を図案化したもので、これらのマークを人(私たち)が広げた両腕の中に抱える構図となっています。広げた両腕から飛び出そうとするマークは、私たち自らの手で美化に取り組むことにより、未来に向かって秋田県の環境が向上していくことをイメージしています。



住民のみなさんが「大切な八郎湖をきれいな湖にしていこう」と取り組んでいる様々な活動のシンボルとなっています。パンフレット等に登場しますが、名前はついていません。「八郎太郎伝説」で、八郎湯に住んでいたと言われる「龍」をモチーフにしていて、地元の小学生から寄せられたイラストを基に誕生しました。

こどもエコクラブ憲章

1. 私たちは、生命を生み、育んでくれる『水と緑の惑星・地球』を愛し、未来に引き継ぎます。
2. 私たちは、自分たちの暮らしや身のまわりの環境に関心を持ち、地球とともに生きていくための努力を続けます。
3. 私たちは、世界中のなかまと、手をたずさえて、地球を守るために活動を続けます。

私たちは、夢を忘れずに、夢を追い続けます。



秋田県こどもエコクラブ事務局

秋田県生活環境部 環境管理課 調整・環境企画班

〒010-8570 秋田県秋田市山王4-1-1

TEL 018-860-1571

FAX 018-860-3881



リサイクル適性(A)
この印刷物は、資源のむねへ
リサイクルできます。

この用子は1,000部作成し、一部209.00円です。